

平成22年度 シラバス	学年・期間・区分	2年次・通年・A群	
	対象学科・専攻	機械・電気電子・電子制御・情報・都市環境デザイン工学科	
倫理 (Ethics)	担当教員	中村 隆文 (Nakamura, Takafumi)	
	教員室	一般科棟 3階 (tel. 42-9043)	
	E-Mail	nakamura@kagoshima-ct.ac.jp	
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義 / 履修単位[講義 I] / 2単位		
週あたりの学習時間と回数	〔授業 (100分) + 自学自習 (80分)] × 30回		
〔本科目の目標〕 青年期の特質と課題を理解すると同時に、先達思想について、その基本事項を理解する。それによって、自己を客観的にとらえ、自己の生き方を模索するための自覚的態度を養うことが本科目の目標である。			
〔本科目の位置付け〕 1年次の「歴史」を基礎としつつ、スタンダードな倫理思想史を学び、下記の授業項目にそって個々の問題を考察・検討していく。3年次の「政治・経済」、4年次の「倫理学」「哲学」に関連する基礎知識として位置づける。			
〔学習上の留意点〕 単なる暗記に終わることなく、自分自身で問題を考え抜く態度を身につけること。 教科書や適宜配布するプリントを参考に毎回復習し、80分以上の自学自習を行うこと。			
〔授業の内容〕			
授 業 項 目	時限数	授業項目に対する達成目標	予習の内容
第1章 青年期の課題と自己形成			
1. 青年期の意義	4	マージナルマン、モラトリアムなど、青年期特有の諸問題を理解できる。	教科書pp. 6-11を読み、概要を把握しておくこと。
2. 青年期の課題と生き方	4	アイデンティティや自己実現などの重要性を理解できる。	教科書pp. 12-20を読み、概要を把握しておくこと。
第2章 人間としての自覚			
1. 哲学と人間	6	ギリシア・ヘレニズム・ローマ・中国思想の特質を理解できる。	教科書pp. 22-45を読み、概要を把握しておくこと。
——前期中間試験——		第1章と第2章1節について達成度を確認する。	
2. 宗教と人間	4	ユダヤ・キリスト教、イスラム教、インド思想、仏教などを理解する。	教科書pp. 46-65を読み、概要を把握しておくこと。
3. 芸術と人間	2	芸術と人間性との関わりについて理解する。	教科書pp. 66-68を読み、概要を把握しておくこと。
第3章 国際社会に生きる日本人の自覚			
1. 日本人の精神風土	2	日本古来の自然観・世界観を理解する。	教科書pp. 70-76を読み、概要を把握しておくこと。
2. 外来思想と日本の伝統思想	2	仏教受容と、その後の日本独自の文化形成について理解する。	教科書pp. 77-98を読み、概要を把握しておくこと。
3. 西洋思想と日本人の近代化	2	明治以降の近代日本について理解を深める。	教科書pp. 99-112を読み、概要を把握しておくこと。
4. 国際社会に生きる日本人の自覚	2	第二次世界大戦以降の現代日本について理解を深める。	教科書pp. 113-118を読み、概要を把握しておくこと。
——前期期末試験——		第2章2節から第3章4節までの達成度を確認する。	
答案返却・解説	2	試験において間違った部分を理解できる。	
第4章 現代を生きる人間の倫理			
1. わたしたちの「いま」	4	現代における合理主義・人間中心主義の功罪について理解する。	教科書pp. 120-122を読み、概要を把握しておくこと。
2. 人間の尊厳	4	西洋近代における倫理思想について理解を深める。	教科書pp. 123-142を読み、概要を把握しておくこと。
3. 民主社会の倫理	2	市民社会の成立に関わる各種社会思想についての理解を深める。	教科書pp. 143-152を読み、概要を把握しておくこと。
4. 新たな人間象の模索	2	近代以降、「主体性」がどのように変貌してきたかを理解する。	教科書pp. 153-162を読み、概要を把握しておくこと。
5. 自然や科学技術と人間のかかわり	2	近代から現代までの各種科学観について理解する。	教科書pp. 163-169を読み、概要を把握しておくこと。
——後期中間試験——		第4章1節から5節までの達成度を確認する。	

